

NPO都市災害に備える技術者の会 第5回WG議事録

日時：平成17年8月22日(月) 18:30～20:50

場所：神戸まちづくりセンター6F会議室

出席者：笹山、片瀬、三輪(神戸まちづくりセンター長)、太田、石川、宮本、藤井、伊藤

配布資料：(1)NPO受託業務「大地震時における宅地盛土の被害に関する調査業務」進捗報告

(2)NPO法人 都市災害に備える技術者の会

『近畿各府県間の防災・減災ネットワークづくり』第一回ミーティング議事録

(3)NPO都市災害に備える技術者の会 第4回WG議事録

1 NPO受託業務「大地震時における宅地盛土の被害に関する調査業務」進捗報告について

資料(1)に基づき、太田からの進捗報告と出席者からの質疑があった。今回の受託業務は、国土交通省の重点施策の中の「災害に強い国土づくり」に具体的な項目として取上げられた『大規模盛土造成地の耐震補強』(既存の「宅地造成法」でカバーしきれない部分を新たに法制化しようとするもの)の基礎資料とするものである。

新たに、「大規模盛土造成地の変動予測事業の創設」と「大規模盛土造成地の耐震補強事業の創設」が予定されているので、今後同種の調査のモデルとなるであろう。

盛土の耐震化基準について、石川氏から「震度6強で盛土の側方流動が起きないようにする」という性能基準とし、地域・場所ごとの特性については一律基準とせず特記事項で個別に対応するようにするのが現実的との意見があった。

対策工法については、いろいろな工法が出てくるのが望ましいが、機能審査を厳格にやりすぎると高規格・高価格の対策工になってしまい、民地対策として使えないものになるかもしれないので注意しなくてはならないという意見が出た。

2 『近畿各府県間の防災・減災ネットワークづくり』第一回ミーティング報告

8月21日(日)に近畿圏の行政防災担当者と国交省および関係機関の方々が一同に会してネットワークづくりミーティングが開催された。笹山理事長から「危機管理という言葉はたくさん使われるが、実際に横の連携はなかなかできていない。このNPOでその橋渡しをするというのねらいのひとつである」という意見があった。

3 WG-B 地震動予測値図作成作業において

成果品を県や市等自治体に普及する他、神戸市民の啓蒙へと広げていきたい旨石川さんから意向表明があった。

具体的な啓蒙方法については、一般市民の方に我々のグループ活動へ参画してもらおう方法や、我々から市中へ出て行く方法、あるいは市民へ啓蒙活動を行う教育者・行政担当者・防災ボランティアの中で話をするなど考えられるが、別の機会に検討することとなった。

4 今後のWGの進め方について

WGが現在下記の5グループ活動している。

WG - A (三輪リーダー): まちづくりと防災・減災を考える

WG - B (石川リーダー): 津波・地震災害軽減を考える

WG - C (高田リーダー): まちづくりを考える

WG - D (西山リーダー): 防災教育を考える

WG - E (太田リーダー): 谷埋め盛土防災を考える(受託業務の遂行含む)

今後の活動については、合同WGから個別WGの活動に移行する旨が確認された。個別WGについてはできるところからWGリーダーが主導的に個別に進めていく。その際の会場は、WGメンバーが集まりやすいところをWGリーダーが決めて案内する。

合同WGは研修会の前後の時間をとって2回に1回程度開催するとし、途中経過等を説明できる段階になったWGが適宜行うものとする。

尚、それぞれの活動内容について紹介し、メンバーを募り、進め方の方法、会場など解りやすくする必要はあるが、これについては太田の方で案を作成する。取り敢えず高田先生、西山先生のWGの活動日、活動内容について、WGテーマごとのリーダーから情報・お誘いをMLで配信していただき、会員が参加しやすい環境を整備する。

5 当NPOの役割や方向性について

7月度のWG時にも話題になった標記について、今後MLなどを利用して議論を深めていきたいとの意見があった。単独NPOだけで主体的に活動するのは、当初は荷が重いと考えられるので、近畿各府県間の防災・減災ネットワークづくりで集まっていたいただいた自治体等の行事の中の一部として参加したり、神戸市の福祉コミュニティーの話題の一部として話をできる機会を見つけていきたいという意見があった。

当NPOが市民社会に対して何をやろうとして、実際何ができるのかということ、NPOの存在理由にかかわる重要なことなので、次回研修会時に余分に時間をとって議論することとなった。

当NPOにどのような会員がいて、どのようなことができるのかというリストを作成し、パンフレットとして配ることも必要との意見もあった。

6 次回日程

合同WGは、研修会の日程が未定であるため、それにあわせる。

個別WGは、少人数からでもかまわないので、準備ができ次第開催する。

(記録: 太田、伊藤)